



源太坂



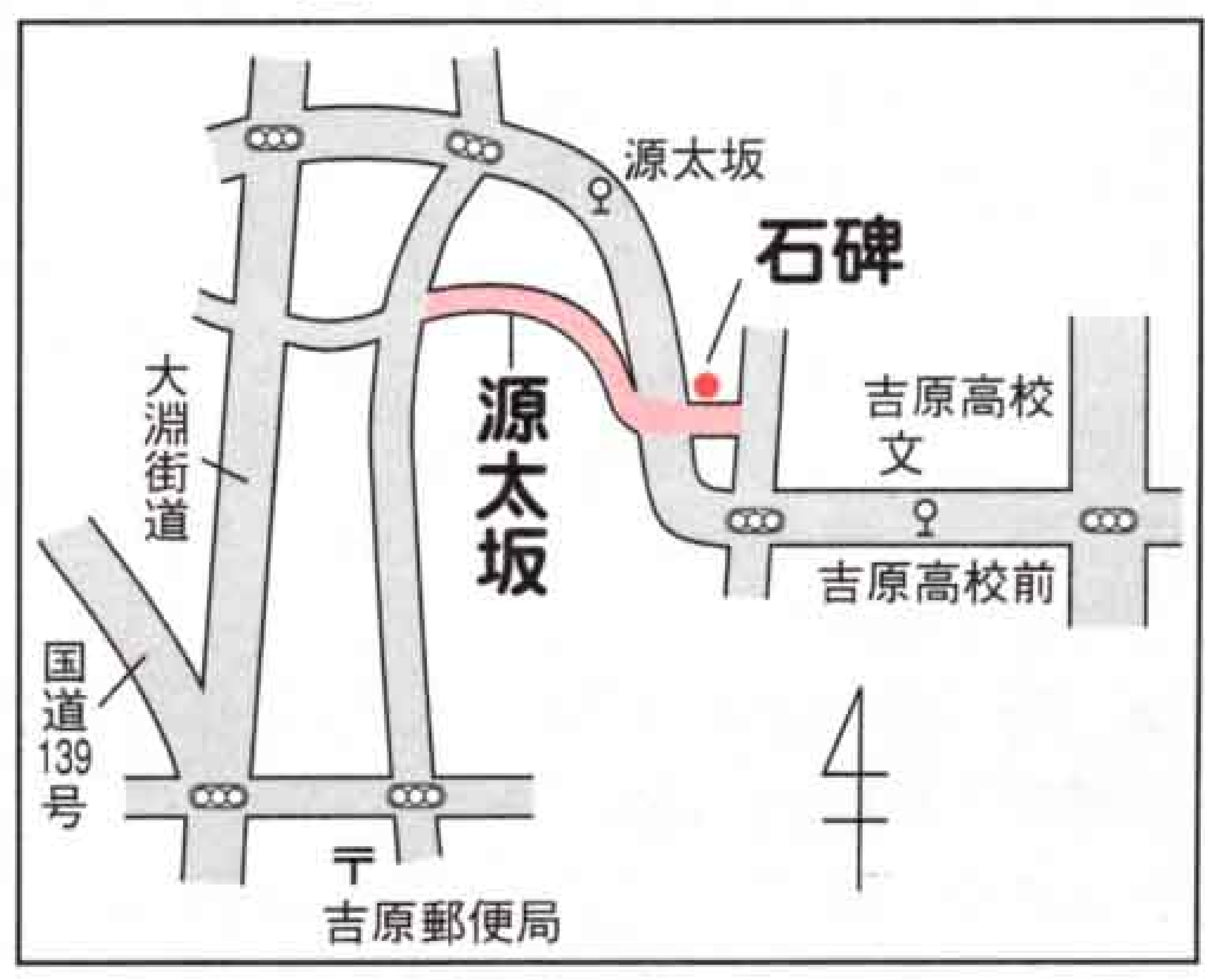
昭和二十年代の源太坂



▲現在の石碑（右）とその付近の様子

吉原高校の西百メートル付近の丘から、西へ向かう下り坂があります。この坂の中ほどには「源太坂」という碑があり、源頼朝の家来で、有能な二人の武将梶原源太（かげすえ）と、佐々木四郎高綱（たかつな）の馬比べの物語を伝えていきます。

源氏の大军が、京都に向かうときの話です。そのころ頼朝は、生食と磨墨という二頭の名馬を持っていました。梶原源太景季は、頼朝に「私に生食をください」と願いましたが、生食をもらうことはできず、やつのことで磨墨をもらいました。しかし、後から頼朝にあいさつに行ったら佐々木四郎高綱が「私に生食をください」と願ったところ、頼朝は案外簡単に生食をくれました。それを悔しく思った景季は、今泉の小高い丘で高綱を待ち構え「殿から生食をもらってきたのか」と、問い詰めました。差し迫った気配を感じた高綱は、笑いながら小声になって「あなたが欲しいとお願ひしてもだめだった生食を、私などがお願いしても、とうていもらえない望みはないと思ったので、昨日の明け方、そっと盗んできたのだ」と言いました。それを聞いた景季は、急に顔を和らげて「そうだったのか。ならば私も盗めばよかった」と笑いながら引き揚げていきました。その後、生食と磨墨の二頭の名馬は、宇治川の先陣争いで互いに競い、立派な手柄を立てたそうです。



馬比べの話は直接聞いたことはないのですが、源太坂の石碑は源平の戦いを伝える碑だと聞いたことがあります。

現在は、吉原高校の前から続く広い道を源太坂と呼んでいます。昔は、石碑の前を通り西側（国久保一・二丁目）に下る狭い坂のことを言いました。今では舗装もされてきれいな道になりましたが、昔は大きな岩や石が飛び出したような、ごつごつとした歩きにくい道でした。道幅も、今の半分くらいだったと思います。あたり一面は田畑で、道の周りにはサトウキビなどが植えてあり、家などは全くありませんでした。街灯がなかったのも、夜歩くのはとても怖かったです。数人で肩を組みながら歩いたりしました。

しかし、高台には段々畑や梅林が広がり、北には富士山、坂の下は広く開けた平野で、とても眺めのよいところでしたよ。



増田 みつ子さん (国久保二丁目)
増田 徹夫さん (国久保二丁目)

こちら編集室

9月は運動会の季節です。幼いころから走ることが好きだった私にとって、運動会は数ある学校行事の中でも、大好きなイベントの一つでした。

しかし昔から球技は苦手で、「ボールとは相性が悪い」と都合のいいことを言っは、テニスやバレー

ボールなどのメジャーなスポーツを極力避けて通ってきました。

今でもみずから好んでするものといえば、スキーやスキューバダイビングなど、ボールとは縁のないものばかり。球技の中で唯一好きなバドミントンも、やはりいつまでたっても上達しません。

人口 239,694人 (前月比+131)
男 119,373人 (+88)
女 120,321人 (+43)
世帯 80,408世帯 (+132) 8月1日現在

編集・発行 富士市総務部広報広聴課
〒417-8601 静岡県富士市永田町1-100
☎51-0123 ㊟51-1456

